

『これからの生き方』

21世紀は国際社会です。言葉も民族も風習も違う人と歩み寄り、共に平和に生きていくことが求められる社会です。

言葉も風習も違うのですから、完全にわかり合えるというのは不可能です。それでも、違っていることを認め合って、そのなかから共通点を見つけ出し、戦争でなく平和的に解決していくことが大切です。

さて、今からおよそ400年ほど前、本能寺の変が起きました。明智光秀は「敵は本能寺にあり」と、主君である織田信長を襲いました。信長の手勢はわずかでした。

信長は「光秀ならば是非もなし」と言い死んだということです。

信長は、鉄砲という新しい武器を取り入れ、大胆な戦術を使って、天下統一への道を切り開いていきました。その間、安土城築城や楽市・楽座の制定、関所の廃止などの政治を行い、新しい世の中を実現しようとしていました。

では、なぜ光秀は、天下統一間近の、しかも君主である信長を亡き者にしようとしたのでしょうか。

歴史家などの研究によれば、一言で言うと、お互いの考えの違いです。

信長は、当時の古いものをぶち壊し、新しい世の中にしようとしていました。そこで、反対する者はどんな手段を使っても滅ぼしてきました。人々の信仰の対象である寺も焼き払いお坊さんも殺したりしてきました。

これに対し光秀は、将軍様や朝廷など日本の政治体制を尊重する政治をめざしていました。いわば、考え方の違いから起きたのです。

今の日本では、考え方が違って選挙で戦い、殺し合いはしません。しかし、世界を見ると、宗教の違いによる争いがあったり、自分たちの思想信条を押し通そうとするテロ行為があったり、世界の多くの国から「止めてほしい」というメッセージがあるにもかかわらずミサイルを打ち上げる国があったり、また、その国に対して、いつでも攻撃をしかけることができると考える大統領がいたりなど、いつ戦争が起きても不思議でない状況があります。

このような状況のもと、将来を担っていく子どもたちは、これからの時代をどう生きていくべきでしょうか。

織田信長が生きた戦国時代のようにすることは、誰も望みはしないでしょう。

これだけ情報化が進み、グローバル化が進展している時代にあって、あらゆる情報をどう受け止め、どう判断するのかということがキーポイントになります。一部の意見を鵜呑みにしたり、十分に吟味をしないまま他人の意見に迎合したりなどに気をつける必要があります。

また、歴史をひもとき大きな過ちを再び繰り返してはいけないことを学ぶことも大事でしょう。

とにかく、自分さえよければいい、相手がどうなろうとおかまいなしといった態度や考え方に陥ってほしくはないものです。

子どもたちには、相手の意見や考えをしっかりと聴き、自分の意見や考えをしっかりと伝え、互いに納得のいくまで議論をかわすという姿勢を身につけてもらいたいものです。

今の時代は、世界の国々と交流する時代です。考え方が違うのが当たり前です。お互い相手を尊重しながら生きていくことが必要です。